

令和8年度 砺波市総合教育会議（第1回）概要報告

- 1 開催日時 令和8年7月16日（木） 午後3時00分～午後4時30分
- 2 開催場所 砺波市役所 3階 大ホール
- 3 出席者 夏野市長、白江教育長、齋藤教育長職務代理者、岩崎教育委員、吉澤教育委員、大野教育委員
- 4 出席職員 坪田企画総務部長、河合教育委員会事務局長、佐伯企画政策課長、田中教育総務課長、山田こども課長、大石生涯学習・スポーツ課長、山越教育センター所長、小幡企画政策課企画調整係長、平木教育総務課庶務係長

5 議 事

- (1) 砺波市教育大綱の改定について（教育総務課）
- (2) 砺波市立学校の教員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

6 会議の概要

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶

市長

今回の会議では、過酷な労働環境という印象を持たれている教員の働き方改革を進めるために策定した「砺波市立学校の教員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について議論していただくが、今年度から砺波市の小学校では「45分授業」から「40分授業」に変更したことにより児童の下校時刻を早めるなどの取組も始めたところである。

教員の皆さんがしっかりと力を発揮していただけるような環境作りを進めてまいりたい。

また、来年度改定予定の「砺波市教育大綱」についても、教育委員からの意見を伺いたく、説明させていただきたい。

(3) 議事

1 砺波市教育大綱の改定について（教育総務課）

事務局 （事務局説明）

教育委員 資料1に記載がありますとおり、6月30日（火）に総合計画の審議会において基本構想（案）が提示されたとのことですが、どのようなものを提示されたかお聞かせください。

主要施策の記載順等に統一性がないが、意図があるのでしょうか。

また、令和8年3月に第3期富山県教育大綱が策定されましたので、砺波市教育大綱を策定する際には、富山県の大綱を確認したらよいと思います。

事務局 6月30日の総合計画審議会では、基本方針の素案だけ今お示ししている段階であり、個別施策についてはまだ審議会では提出していません。教育大綱については、これから審議する主要施策に合わせて改定を進めることにな

るかと考えております。

また、主要施策と教育大綱の記載順が異なるということです。現在の教育大綱策定時に「人の成長する過程の順番にすればどうか」との意見をいただき、並び替えをいたしました。次回改定時には改めて主要施策の順番とシンクさせて作成するか、検討したいと考えております。

また、委員ご指摘のとおり、富山県教育大綱も改定時には確認し整合性等を図ります。

教育委員

外国にルーツのある子供が増えていると実感しており、日本での学校生活にてサポートできるようなことを位置づけたらよいと思いました。

また、現在の教育大綱では図書館やスポーツ施設の充実について記載されており、これは改定後もぜひ掲載してほしいと考えるが、市の図書館やスポーツ施設において高齢者が活発に活動されており、その活動の中では若者との交流も生まれていると感じました。

教育委員

子供の豊かな心と健やかな体を育むためには、「食育」が大切だと考えます。食事の時間が一番子供の体調や状態わかる時だと思いますし、食事時の会話にてコミュニケーション能力を高めることもできるので、ぜひその時間を大切にしてほしいなと思いました。

子供が生きる力を身につけることは非常に大事なことです。コミュニケーションが取れる子供に育ってほしいです。

また、給食でも農業振興や地産地消の観点から、食育に取り組んでいただきたいです。

市長

食育については、本市商工農林部にて策定する農業基本計画にて盛り込みますが、教育委員会でもこども園での収穫体験や、小中学校の給食にて地元の食材を紹介したりと、色々取り組んでいます。

豊かな心と健やかな体を育てるために、食育が大切であることは認識しており、給食の中で地元の食材を活用してまいりたいが、どうしても地元の食材を増やすと給食の単価が上昇してしまう傾向があります。給食費の無償化については、引き続き富山県と連携して継続して、まいりたいと考えております。

教育委員

子供たちが地域文化に慣れ親しむことや地域を愛することは非常に大切だと感じており、親としても大切にしたいと考えています。

市長

砺波市内の夜高祭りなどは、都市化が進んでも継承が続いており、素晴らしいことだと認識しています。

教育長

こども園でも食育を大切にしています。あるこども園では自分たちで野菜を育てており、自分たちで育てた野菜にはすごくチカラがありまして、野菜を育てて食べる、実際に料理するようになって、それを人に伝えるという要素もあります。

小中学校とこども園の連携も深まっており、小学校がこども園から学ぶことも多くなってきています。

委員からはコミュニケーション能力を育てる機会について意見がありましたが、今年度から小学校では40分授業を開始しました。子供たちからは

短くなったという実感はあまり感じないと聞いています。子供たちがそれだけ自分の考えをもって伝えることが多くなり、子供たちが「自立した学習」が進んでいると捉えています。

2 砺波市立学校の教員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について (教育総務課)

事務局 (事務局説明)

市長 中学校教員の勤務については、地域移行も進めていますが部活動の時間が大きいのではと考えられます。

教員は会社員とは異なり、仕事とプライベートの切り替えが難しいのかもしれないかもしれませんが、そういうところも含めて意識改革等もしていかなないと超過勤務時間の縮減にはつながっていかないのではないのでしょうか。

教育委員 昨日開催された、富山県市町村教育委員会連合会の研修会において、文部科学省の講演に参加したが、その際の資料にも教師の厳しい勤務実態が書かれていました。この勤務状況は砺波市でも同様であり、現場の努力だけでは解決できないのではと感じています。

事務局 小学校においては、現在「チーム担任制」を導入していますので、チーム内で調整を行うことにより有給休暇を取得しやすい状況を整えています。また、今年度より「40分授業」を導入したことにより、子供たちの帰宅時間が15分程度早くなりました。それにより教員がどう過ごすかということ工夫することで、帰宅時間を早めることができると思います。

教育委員 地域の教員の方は多忙のため、地域のイベントなどに参加できておらず、地元との交流が少ない印象です。

先ほどの議事でも地域の文化や伝統の継承を大切にしたいと申しましたが、教員もぜひ業務量を見直していただき、地域の行事などに参加してもらいたいと思います。

教育長 教員のストレスチェックの結果を分析しますと、仕事量については多いと感じる割合が多いが、上司や先輩からの支えがあると感じている割合も多いとのことです。周囲の方からのサポート体制は、この分析結果からも確立されていると感じています。

各学校においては、教員の出勤時間を8時15分から8時に変更するところもあり、朝の会の時間のスリム化なども図っています。

こういったシステム的に教員の負担を軽減できることは積極的に進めていきたいと考えており、また教員同士の協力体制を構築することにより、平日に有給休暇を取得できる環境作りも進めていきます。

教員一丸となって、意識改革を行えたらと考えています。

市長 世間一般的に「働き方改革」が進んでいると実感する反面、教員の方々についてはこの世間の流れに一瞬遅れたものと考えています。教員の皆さんの意識を変えていけるよう、取り組んでまいりたいと思います。

(4) 閉会